



拓殖大学学長 渡辺 利夫

人間は文章を書くことによって初めて成長する、そういう存在です。文章を積極的に書く人の成長は速いが、文章の嫌いな人が成長することはまずない、と私は思います。

人生の過程で私も何度もさまざまな経験を重ねます。しかしどんなに多くの経験をしようとして、ただそれだけでは経験が「経験知」となって積み上がってはいきません。

経験は、これを文章化する

ことによって初めて、書き手に固有の真の経験として「体化」されるのです。一つの経験を文章化することによってこれが「経験知」となり、その上に次の経験がもう一つの「経験知」として積み上がり、そうして私の人生はだんだんと豊かで深いものになっていくのです。正確なきちんと

した文章を書くよう心がけましょう。文章には不思議な力があります。私もはある考えがあってこれが文章となつて紡ぎ出されると考えがちですが、逆に、文章を書くという知的努力が私どもの優れた考えを掘り起こす原動力ともなっているのです。

不明瞭で不正確な文章を、できるだけ明瞭で正確な文章

にしよという知的な作業が、私どもの考え方を明瞭で正確なものにするのです。文章を書くことが人間の成長に決定的な影響をもつと、私が冒頭にいったのはそのためでもあります。

今回の高校生や留学生の応募作品のうち、特に優れたものは、私がいま書いたとき、無意識的にあはれ感得して

くれている生徒のものに違いないと私は確信しています。

拓殖大学の国際協力・国際理解作文コンクールも、第7回目を迎えました。この機会に、作文のみならず、高校生と先生たち、さらに地域社会との「協働」による「アクション」をも応募の対象としました。この試みは成功であったと自負しております。今回の

### 文章を書くとはどういうことか

のアクション  
プログラムの優秀賞  
の受賞作品

は、まさに自分たちにかできない経験を自分たちの文章や資料で巧みにまとめたものばかりだったからです。この「経験知」の積み上げが一段と高いものとなるようさらに努力をこらして下さる。

拓殖大学のこのコンクールが日本の若者の文章力を少しでも高める一助となることを私は心から希望しています。